

無印本命

人生は毎日がオーディション

白井 正己

Usui Masami

林一章



宇野元英



三重悦子



久米美名子



野々川明子



HIDEMARU



白井正己

青山ライフ出版

はじめに

山本昌と無印本命

2013年2月7日、私は名古屋から渋谷区に引越した。

共に商業出版した拙著『転職王』や『毎日が革命』に書いた通り、97年5月、人生のどん底で、片道切符を握りしめて実家に緊急避難して以来、住民票が東京23区内に動いた。ということとは次回の都知事選に出馬する資格ができたということだ。

もちろん、現状の知名度では出馬しても落選は確実だ。だからこそ、無印から本命にならないければならない。

私が主宰する無印本命プロジェクトは08年10月20日に資本金50万円でスタートした。

無印本命とは「今は無名で世間的にはノーマーク（無印）の存在だが、心の中では自分がNo.1（本命）」と知っている人のことで、無印本命プロジェクトとはそんな無印本命の人を発掘し、育成し、応援するプロジェクトのことだ。

その無印本命プロジェクトを成功させるために、私は08年12月1日にファーニッシュ山王という、同年10月に完成したばかりの新築のマンションに引越しをした。

なぜ、そのマンションを選んだかという点、その物件はナゴヤ球場の真ん前にあり、物件を見学に来た時に私が入居を決めた107号室のベランダからナゴヤ球場の駐車場にいる山本昌の姿が見えた。

『0から始める幸福論』に書いた通り、私は大の中日ドラゴンズファンであり、中日の選手が部屋から見える物件というのはホットポイントである。更にナゴヤ球場は現在には主に2軍の選手が利用する。2軍の選手というのはプロ野球選手の中では無印の選手である。その2軍の選手の中で無印本命の選手は誰かを予測することは無印本命な人とそうでない人を選別する目を養うことにつながるのではないかと思っただからだ。

理由をあげれば、そんなところになるが、直感によるところが大きい。

そして、引越しが決まったのが今年の1月2日。奇しくも、その後すぐに山本昌の著書『継続する心』が1月末に発売されることを知った。

星野書店近鉄パッセ店での握手会に参加した私は自らの広告記事が載っている「かさこマガジン3」（5500部発行、無料）を山本昌に渡すことに集中していて、握手をしないまま帰ろうとした。

見ての通り、優しい昌は「握手、握手」と私に目をやり声を発した。場内からは失笑が漏れた。慌てて私は手を差し出した。そして、3秒程握手をした。

正直、AKB48の握手会（まだ参加したことはないが…）より山本昌の握手会の一人当たりの時間は少ないと思うが、私はそれで満足だった。

マンションの下見の日に私が目撃したことも、沖縄キャンプでファンへのサインを申し訳なさそうに断る姿を私が見ていたことも彼は知らないに違いない。

もちろん、この日にした握手だって、無名で400人集まった参加者の1人にすぎない私のことを彼が覚えているとは考えにくい。

でも、この瞬間こそが私と昌が繋がった小さな、小さな一歩だった。

小さなきっかけを生かす！

そして、自宅に戻るとすぐに私は昌の本を読み始めた。

すると、ウエスタンリーグと書くべきところが「ウエスタンリーグ」になっていることに気が付いた。小さなミスではあるが明らかな誤字である。

すぐに出版社に電話したが、担当がいらないとのことで翌日、担当から電話させますと言われ

た。

約束通り、翌日、午前に出版社から電話があった。

あいにく、その電話には出られなかった。

担当者からの留守電には「誤字の指摘ありがとうございます。重版の時に修正させていただきます」と残されていた。

が、その時点で私は更に10箇所ほど誤字を発見していたのだった。

昼休みに誤字を一覧表にした1枚の手書きの用紙をFAXで送信した。昼休みの50分の間にコールバックはなかった。15時の休憩の時に着信が残っているのを確認した。

留守電には再びメッセージが残されていた。そこには「あそしなです」から始まる異性の音声が残っていた。

「あそしなって社長じゃない？ 社長の携帯電話から電話がかかってきた！」と心が躍った。失礼ながら、山本昌の本が出るまで版元の青志社の名前は知らなかった。

が、前日にホームページで青志社は赤坂に事務所を構える資本金6200万円、従業員9名の会社で、社長は阿蘇品蔵という情報をインプットしていた。

「従業員9名の会社に阿蘇品などという変わった姓はそんなにたくさんいるわけがない。社長か息子からの電話に違いない」

興奮を抑えられないまま私は定時の17時までルーチンワークをこなした。右脳では「あそしなさん」との会話をシミュレーションしながら手はきちんと動かしていた。

仕事が終わるやいなや、寒風吹き荒れる名古屋市港区の路上から着信のあった携帯電話に折り返し電話をした。すると、すぐに男性が電話に出た。

「先ほど電話を頂きました、白井です」と言ったが、先方には通じないようだった。そこで、「誤字のFAXを送信した者です」と告げると、相手の声色が変わった。訝しげな声から一転、丁寧な扱いになったのだ。

確認したらやはり声の主「あそしなさん」は社長阿蘇品蔵さんだった。「週刊女性」の編集長、有名出版社の社長を経て独立。池田大著作『幸福抄』や石原裕次郎、石原まき子、細木数子の本を手掛けた一流の出版人だ。

興奮しながら、わざわざ社長自ら電話を頂いたお礼を言うと、社長は「指摘された誤字の箇所が素人とは思えなかった。これは業界人に違いない」と電話をくれたのだそうだ。

その後は『転職王』を謹呈したり、メールをやりとりしたりして、かろうじて社長とは繋がっている。

この『継続する心』出版記念握手会に参加してからのエピソードは引越しの翌日にお会いした資本金1億6715万円のオトバンク上田渉会長に伝えた。すると、是非、御紹介ください

とのことだった。すぐに、私はその旨を阿蘇品社長にメールした。近いうちに3人で会うことになるのではと期待している。

山本昌は著書の最後で自らを今年48才のルーキーと表現していた。今年37才になる私もルーキーの気持ちで「毎日が革命」というメッセージを実践したい。小さなオーディションに合格し続けることが毎日が革命ということであり、小さなオーディションは毎日開催されている。それに気付ける人だけが無印から本命になれる人なのだと思う。

48才のルーキー「山本昌48」と共に2013年を駆け抜けたい。(敬称一部略)

2013年2月11日 建国記念日(神武天皇の紀元節)に

スターバックス新宿グリーンタワービル店で

無印本命プロジェクト代表、革命戦士 白井正己

電子版のためのまえがき

その後、阿蘇品社長と上田会長を繋げることができた。そして、ホリエモンの『ゼロ』の発売がきっかけで、そのキズナはより深まった。

結果として、上田さんの会社のメディア「新刊」に青志社の本『夢をかなえる「打ち出の小槌」』を紹介してもらうことができた。

また、来年2月10日には阿蘇品社長をゲストに迎え、第3回白井正己トークライブをサンクチュアリ出版で開催する予定である。

2013年12月3日

神田俊樹	69
林一章	64
宇野元英	54
三重悦子	45
色野そら	22
野々川明子	11
はじめに	3

あとがき	117
白井正己	88
H I D E M A R U	83
岳谷鈴女	80
久米美名子	74